写真左から　新盛叶巴さん、宮良穂乃花さん、呉屋茉央さん

石垣第二中学校のみなさんが、10月25日～３日間、市役所で職場体験をしました。6か所の部署をまわり、26日には広報いしがきの取材を体験しました。

私たちは、八重山博物館で開催された企画展「喜舎場永珣と資料」を見学しました。
見学を通して、皆さんに知ってほしいこと、
伝えたいことを、
私たちなりにまとめました。

いま、伝えたい。喜舎場永珣（きしゃばえいじゅん）について。

どんなひと？

1885 年に登野城で生まれました。8 歳のときに、お父さんが病気で亡くなり、家計が苦しかったそうですが、気丈なお母さんに育てられ、八重山島高等小学校を卒業しました。その後、働きながら、コツコツお金を貯めて、沖縄師範学校に入学しました。卒業後は、帰郷して大川尋常小学校で先生として勤めました。気骨稜稜（きこつりょうりょう）、体格が大きく、相撲が強く、堂々とした方で、抜群の記憶力を持ち合わせた方だったそうです。

八重山博物館には、2938 点の資料があります。（図書が 1645 点、文書が 232 点、写真が 447 点、証書・辞令書が 167 点）

何をしたひと？

最も大きい功績として紹介されていたのが、
①教育者として多くの人材を育成したこと。加えて地域に深く関わり、地域の歴史・文化の大切さや重要性を地域の方々へ説いたこと。とくに八重山文化や芸能の育成発展に計り知れない影響を与えた。
②八重山の歴史・文化を体系的にまとめ上げ、八重山から外の世界をみることの重要性を知らしめた。
③資料の収集の重要性を強く感じ、その収集に努め、家族の協力を得ながら保管を徹底し、後世への貴重なプレゼントとして残したこと。
などと紹介されていました。

短い時間でしたが、多くの資料を見ることができました。また、博物館の大濱係長に案内をしていただき、八重山研究の父と呼ばれる永珣先生の功績は数えきれないほどあることがわかりました。

ワタシのおすすめポイント

1906 年から 66 年間の、八重山で発刊された新聞がほぼ収集されていたそうです。永珣先生は、「新聞には時代の情報が記され、積もれば八重山の歴史となる。」と、家族に話していたそうです。私も新聞を作っているとき、読んでいるときは楽しいので、気持ちが共感できました。永珣先生が、新聞を保管し、記録を残してくれなかったら、昔の情報が伝わっていなかったかもしれないので、すごいと思いました。（呉屋茉央）

1928 年、東京の日本青年館で開かれた郷土舞踊民謡大会に沖縄代表として招待（柳田邦男の働きかけで）され、永珣先生はその八重山芸能団の監督者になりました。
当時は舞踊の稽古をしている人が少なく、メンバー集めにとても苦労したそうです。また、経由地の沖縄本島では、八重山芸能団の上京をおもしろく思わなかった舞踊関係者からの妨害などを受けたが、めげずにメンバーたちを守り抜き、東京での講演を大成功させたそうです。舞踊・古謡への愛を感じました。（新盛叶巴）

1945 年 6 月、戦争によって住民は白水などへ避難することになりましたが、永珣先生は資料を守り抜くため、家畜小屋に厳重に隠しました。敷地内には、2 発のロケット弾が落ちて、お家などが壊れてしまいましたが、資料はかすり傷ひとつなかったそうです。
また、八重山古謡の研究、学問的価値が大きく評価され、研究者の最高の名誉とされる柳田賞を、満場一致で受賞したところがすごいと思いました。（宮良穂乃花）

永珣とジョージ・H・カー博士